

令和 6 (2024) 年度日本歴史研究コース授業計画

授業名	古代社会論 日本先史社会の研究				
担当教員	松木 武彦				
授業概要	日本列島の旧石器時代から古墳時代を対象に、考古資料を用いて社会の持続と変化のメカニズムを明らかにする方法を、新しい考古学の理論と実践をもとに解説する。				
教育目標・目的	考古学および人類学の研究者として必要な、先史社会を解明するための哲学的視座と科学的基盤、およびそれに根ざした理論と方法を意識させる。それを前提として、対象とする考古資料の分析と考察の手法を具体化させることを目標とする。なお、受講対象者の研究内容によって、授業計画各段階の比重を換えることがある。				
成績評価	平常点 (5割)、レポート (5割)				
授業計画	1. 考古学・人類学および進化科学の現状	9. 「弥生文化」とは何か：型式と文化			
	2. 進化生物学とホモ・サピエンス	10. グローバル・ヒストリーと弥生時代			
	3. 社会進化説と国家形成論	11. 弥生時代から古墳時代へ			
	4. 新進化主義とプロセス考古学	12. モニュメントの比較考古学			
	5. ポスト・プロセスと認知考古学	13. 古墳とは何か？			
	6. 「考古資料論」の新旧	14. 考古学と人類の未来 ①戦いの考古学			
	7. 旧石器時代から縄文時代へ	15. 考古学と人類の未来 ②環境と人類			
	8. 縄文文化と認知考古学				
実施場所	演習室	使用言語	日本語		
前期・後期の別	前期	対象年次	3, 4, 5	単位数	2単位
教科書・参考図書	参考書として、松木武彦 2009『進化考古学の大冒険』講談社、同 2016『美の考古学—古代人は何に魅せられてきたか—』講談社				
備考					